

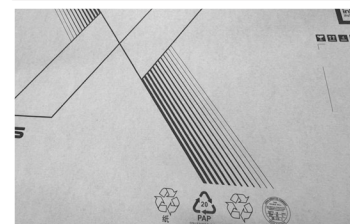
台湾・信記紙器、デジタル機で全印刷



「G l o r y 2 5 0 4」による印刷・加工の実演の様子。試刷り1枚、高速セット替えが際立つ



大型ケースを難なく印刷・加工



細字はくっきり



美粧印刷も強み

訪れた際、美粧印刷を気
が、同ユーザーが工場を
プルのデザインだった
えの早さ、細字の明確さ
白ライナへの美粧性の高
い印刷は、日々の仕
事もデジタル機で行っ
ているだけあって、圧巻
の実演であった。
もつラインの「E l i
t e」によってニス加
工すれば、美粧性やベタ
印刷の品質がさらに上
が。また、実際に工場
で社工場を建設したい」と

従業員は、
「台湾はもとより、アジア、世界中で私が知る限り、デジタル機のみは当社だけ。一番は従業員が意欲と情熱をもって、共に新しい挑戦に臨んでくれた点が大きかった。（今後同様の取り組みを検討している同業者）に伝えることがある」とすれば、まずは伝統的な考え方を一度全部捨てて、新しい機械を入れたことでのメリットを享受する一方、トラブル（デメリット）もいろいろと受け止めて前に進むことが必要かと思う。加えて、再び自社の伝統、つまりは従来からの経験も生かしていく。このサイクルが良い結果につながるのでは」とした。
現在、月によって稼働日は異なるが、日産1万1千平米あまりを製箱している。ロットの大小は千差万別なもの、セット替えに要する時間は数十秒で済み、滞りなく、次々と製造計画が進捗していく。生産性向上は競争力強化につながり、仕量の増加はもとより利益率も、同業他社と比べ「少なくとも10%以上は高いのではないか」と江総経理は分析する。
そして提案力の広がり、高付加価値化を大きく促進する。例えば、ある家電製品の外装ケース、従来は黒1色のシンプルなデザインだったのが、同ユーザーが工場を

亜熱帯に属する台湾北部、4月ともなれば30度を超える日が少なくないものだ。
そんな同社が今、段ボール用デジタル機のみで印刷を行うという世界で器は、首都・台北の衛星都市である新北市の少々山あい、緑豊かな場所に位置する。工場外観は特段変わったところはない。これに言及する前に

まずは同社の歩みを見てみたい。
1976年、江総経理の父である江明炫董事長が、段ボール事業を開始し同社を設立、80年には現在地に移転した。段ボール事業に進出する前は、冷蔵庫など家電製品向けを中心とした木箱製造に、若い頃から従事していた。今も主力ケース（ニスコーター、乾燥ユニット付）と立て続けに設備した。一方でこれに長い付き合いといい、強い信頼で結ばれており、同社パッケージの半数あまりを担っている。
創業から50年弱が経

た2022年にHanway製の段ボール用シングルパス型デジタル印刷加工機「G l o r y 2 5 0 4」（スロットユニット付）、24年には、やはりシングルパス型デジタル印刷機「E l i t e」（ニスコーター、乾燥ユニット付）と立て続けに設備した。一方でこれに長い付き合いといい、強い信頼で結ばれており、同社パッケージの半数あまりを担っている。
創業から50年弱が経

た2022年にHanway製の段ボール用シングルパス型デジタル印刷加工機「G l o r y 2 5 0 4」（スロットユニット付）、24年には、やはりシングルパス型デジタル印刷機「E l i t e」（ニスコーター、乾燥ユニット付）と立て続けに設備した。一方でこれに長い付き合いといい、強い信頼で結ばれており、同社パッケージの半数あまりを担っている。
創業から50年弱が経

た2022年にHanway製の段ボール用シングルパス型デジタル印刷加工機「G l o r y 2 5 0 4」（スロットユニット付）、24年には、やはりシングルパス型デジタル印刷機「E l i t e」（ニスコーター、乾燥ユニット付）と立て続けに設備した。一方でこれに長い付き合いといい、強い信頼で結ばれており、同社パッケージの半数あまりを担っている。
創業から50年弱が経

た2022年にHanway製の段ボール用シングルパス型デジタル印刷加工機「G l o r y 2 5 0 4」（スロットユニット付）、24年には、やはりシングルパス型デジタル印刷機「E l i t e」（ニスコーター、乾燥ユニット付）と立て続けに設備した。一方でこれに長い付き合いといい、強い信頼で結ばれており、同社パッケージの半数あまりを担っている。
創業から50年弱が経

H a n w a y 製2機体制 前例ない挑戦、成功への道

フレキシブル機は撤去

過、現在の従業員数は40名程度。国内外の有力家電メーカーや、日系大手日用品メーカー現地法人など、顧客には優良なケースユーザーが多く、事業は順調に推移していた中、デジタル化に大胆に舵を切ったわけだ。
「大手顧客も高評価」
2022年にHanway製の段ボール用シングルパス型デジタル印刷加工機「G l o r y 2 5 0 4」（スロットユニット付）、24年には、やはりシングルパス型デジタル印刷機「E l i t e」（ニスコーター、乾燥ユニット付）と立て続けに設備した。一方でこれに長い付き合いといい、強い信頼で結ばれており、同社パッケージの半数あまりを担っている。
創業から50年弱が経

た2022年にHanway製の段ボール用シングルパス型デジタル印刷加工機「G l o r y 2 5 0 4」（スロットユニット付）、24年には、やはりシングルパス型デジタル印刷機「E l i t e」（ニスコーター、乾燥ユニット付）と立て続けに設備した。一方でこれに長い付き合いといい、強い信頼で結ばれており、同社パッケージの半数あまりを担っている。
創業から50年弱が経

た2022年にHanway製の段ボール用シングルパス型デジタル印刷加工機「G l o r y 2 5 0 4」（スロットユニット付）、24年には、やはりシングルパス型デジタル印刷機「E l i t e」（ニスコーター、乾燥ユニット付）と立て続けに設備した。一方でこれに長い付き合いといい、強い信頼で結ばれており、同社パッケージの半数あまりを担っている。
創業から50年弱が経

た2022年にHanway製の段ボール用シングルパス型デジタル印刷加工機「G l o r y 2 5 0 4」（スロットユニット付）、24年には、やはりシングルパス型デジタル印刷機「E l i t e」（ニスコーター、乾燥ユニット付）と立て続けに設備した。一方でこれに長い付き合いといい、強い信頼で結ばれており、同社パッケージの半数あまりを担っている。
創業から50年弱が経

台湾の小規模ボックスメーカーながら、日本はじめ海外から見学者が多数訪れる、信記紙器股※有限公司（江大治総経理、台湾・新北市。※ニンベンに分）。段ボール用デジタル印刷機2ライン（Hanway製、日本での販売総代理店オーシャンテクノロジー(株)）で、全ての印刷を行っている先進性が理由だ。大型対応、美粧性、細字、高速セット替え、可変性」といった特性を最大限活かした印刷・加工は、日系家電現地法人はじめケースユーザーからの信頼が厚い。江総経理は、「私を知る限り、前例のない挑戦。様々な意味での環境性を重視した。伝統的な手法と決別する際、まずは新たな挑戦のメリットを享受するとともに、デメリットと対峙すること未知の成功につながる」と強調した。江総経理が理事長を務める地元紙器組合の会合に合わせて実施された内覧会を現地取材した。



江董事長(右)と江総経理



本社工場外観

江総経理は、「台湾はもとより、アジア、世界中で私が知る限り、デジタル機のみは当社だけ。一番は従業員が意欲と情熱をもって、共に新しい挑戦に臨んでくれた点が大きかった。（今後同様の取り組みを検討している同業者）に伝えることがある」とすれば、まずは伝統的な考え方を一度全部捨てて、新しい機械を入れたことでのメリットを享受する一方、トラブル（デメリット）もいろいろと受け止めて前に進むことが必要かと思う。加えて、再び自社の伝統、つまりは従来からの経験も生かしていく。このサイクルが良い結果につながるのでは」とした。
現在、月によって稼働日は異なるが、日産1万1千平米あまりを製箱している。ロットの大小は千差万別なもの、セット替えに要する時間は数十秒で済み、滞りなく、次々と製造計画が進捗していく。生産性向上は競争力強化につながり、仕量の増加はもとより利益率も、同業他社と比べ「少なくとも10%以上は高いのではないか」と江総経理は分析する。
そして提案力の広がり、高付加価値化を大きく促進する。例えば、ある家電製品の外装ケース、従来は黒1色のシンプルなデザインだったのが、同ユーザーが工場を

新規事業、海外進出

最後に、江総経理に今後について聞くと、「デジタル機の能力を今以上に発揮するために、新たにディスプレイ事業会社を設立した。近隣に専用工場を置き、本格的に強化していく。極小ロットであっても単価は桁違いで、大きな柱になってくれるはず。さらには、現在マレーシアでは現地企業へのOEMで展開しているが、近い将来、同地でもデジタル機のための社工場を建設したい」と話してくれた。